

**教養学部・総合文化研究科**

I	研究の水準	.....	研究 8-2
II	質の向上度	.....	研究 8-4

## I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 論文・著書等の研究業績発表総数は、平成22年度の501件から平成26年度の557件へ増加している。
- 科学研究費助成事業の採択状況は、平成22年度の428件（7億8,000万円）から、平成26年度の487件（9億8,000万円）へ増加している。また、平成22年度から平成26年度における採択率は平均42%となっている。
- 平成22年度から平成26年度において、共同研究は平均27件（6,900万円）、受託研究は平均38.4件（4億8,600万円）を受け入れている。
- 新しい研究領域創成、国際共同研究の展開、研究成果の社会還元等を目指し、平成22年度にグローバル地域研究機構を設置している。

以上の状況等及び教養学部・総合文化研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術面では、研究成果が人文社会科学の文系領域から理系領域、学際領域にまで広がっており、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に、文部科学大臣表彰若手科学者賞、芸術選奨文部科学大臣賞、フランスの芸術文化勲章シュヴァリエ（騎士）、伊波普猷賞等51件受賞している。
- 卓越した研究業績として、文学一般の「アラビアンナイトと日本人に関する比較文化研究」、応用物性の「電場誘起キャリアドーピングによる超伝導と電子相制御に関する研究」、数理物理・物性基礎の「熱ゆらぎや量子ゆらぎが重要な役割を果たすシステムにおける確率動力学的なダイナミクス、及びその制御と情報処理に関する研究」、分析化学の「「生きた細胞や生体内で何が起きているのか」という疑問を目で見えて解決できるようにするための技術開発と応用」等、6細目で6件の業績がある。そのうち「アラビアンナイトと日本人

に関する比較文化研究」では、「アラビアン・ナイト」という物語が近代日本に受容されるプロセスを解析したものであり、シェイク・ザイド・ブック・アワード（他言語によるアラブ文化賞部門）を受賞している。

- 社会、経済、文化面では、研究科構成員の研究領域を反映して、文系理系問わず幅広い領域で研究成果をあげている。特に、機能生物化学の分野で卓越した研究成果をあげている。
- 卓越した研究業績として、機能生物化学の「遺伝情報のダイナミクスの制御に関する研究」があり、広範な抗原に対し抗体を短期間で作成することが可能となる「ADLib システム」を開発し、この技術をベンチャー企業の設立等を通じて事業化を行い、産学官連携に貢献している。これにより、産学官連携功労者表彰で文部科学大臣賞を受賞している。

以上の状況等及び教養学部・総合文化研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、教養学部・総合文化研究科の専任教員数は 359 名、提出された研究業績数は 48 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 40 件（延べ 80 件）について判定した結果、「SS」は 3 割、「S」は 6 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 26 件（延べ 52 件）について判定した結果、「SS」は 1 割、「S」は 6 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 高い質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 新しい研究領域創成、国際共同研究の展開、研究成果の社会還元等に資するため、平成22年度にグローバル地域研究機構を設置している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学術面、社会、経済、文化面両面において、文学一般の「アラビアンナイトと日本人に関する比較文化研究」、応用物性の「電場誘起キャリアドーピングによる超伝導と電子相制御に関する研究」、機能生物化学の「遺伝情報のダイナミクスの制御に関する研究」等の卓越した研究成果をあげている。そのうち、「遺伝情報のダイナミクスの制御に関する研究」は、広範な抗原に対し抗体を短期間で作成することが可能となる「ADLib システム」を開発し、この技術をベンチャー企業の設立等を通じて事業化を行い、産学官連携に貢献している。これにより、産学官連携功労者表彰で文部科学大臣賞を受賞している。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

### 2. 注目すべき質の向上

- 新しい研究領域創成、国際共同研究の展開、研究成果の社会還元等に資するため、平成22年度にグローバル地域研究機構を設置している。
- 機能生物化学の細目の研究成果を活用してベンチャー企業の設立を通じた事業化を行い、産学官連携に貢献している。